

スマート農業によるイチゴの安定生産と 6次産業化で所得向上

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

常総市では常総ICを中心としたアグリサイエンスバレー構想を進めています。当普及センターでは、その中で中核を担うA経営体（観光農園）に対して、生産や6次産業化の取組支援を行っています。令和4年度より新たな栽培システム及び環境制御技術を導入した新設備での生産を開始しており、安定生産に向けた栽培支援や観光農園等に適した品種選定を支援してきました。また、6次産業化の取組では、新たにオープンしたカフェと直売所で販売する加工品の開発・改善を支援しました。

全国屈指のつり下げ式栽培と スマート農業で収量向上

A経営体では、収量向上を図るため、つり下げ式による密植栽培と環境制御技術を導入しました。さらに安定生産を図るため、データを活用した栽培管理にも取り組みました。普及センターでは、ハウス内の環境データとあわせて、生育・収量データの収集・分析も行い、栽培管理や次作に向けた振り返りへの活用を支援しました。その結果、令和4～5年作の収量は、新設備導入前に比べて約77%増加しました。



写真1
つり下げ式による密植栽培

写真2
環境制御装置



写真3 特性把握調査の様子

観光農園等向け新品种の選定

集客力向上に向けて、観光農園等での品種ラインナップの強化を図るため、新たな品種の選定を行いました。令和5年度は3品種の特性把握調査を実施し、収量性・食味等の観点からいずれの品種も優れており、次作へ導入することになりました。

今後は選定した品種をもとに、来園者に喜んでもらえる品種構成を検討していく予定です。

新たな加工品開発支援で集客アップ

A経営体では、令和4年より観光農園と併設したカフェ+直売所をオープンし、6次産業化の取組にも力を入れています。普及センターでは、カフェメニューやイチゴ加工品に使用するイチゴピューレの開発・改善や、新たな加工品開発の支援を行いました。

その結果、改良したイチゴピューレを使用したスイーツや新たにイチゴのスプレッドの販売が開始されました。



写真4
イチゴピューレ試作の様子



写真5
新商品販売の様子